

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 太田高校ランドデザインに沿った教育活動を行っていますか。	① 学校に対し、好きだと感じている生徒（学校生活が充実していると感じている生徒）が、85%以上である。	○大規模伝統校としての良さを生徒同士も感じられる学校づくりを行うため、ランドデザイン等を共有しながらさらに統一した指導に努めていくとともに、スクールポリシーを踏まえ3年間を見据えた指導を実践する。また、多様な価値観のある生徒がいることを職員間で共有し、より深い生徒理解を実践する。 ○ICTのより一層の活用等による主体的・本質的な学びを推進するとともに、エージェンシーを意識した授業展開や手法を職員全体で開発し、協働的な学びの機会を増やす。	A	A	A	○各学年とも、学校のことを「とても好きだ」「好きだ」と回答している生徒が85%を超えている（3年生90.9%、2年生90.3%、1年生87.9%）。そのうち「とても好きだ」の割合が3年生39.8%と驚異的な高さになっている（2年：23.8%、1年生：25.0%）。授業内容（レベル・内容・量など）に対する満足度も上位学年ほど高くなっており、年度進行とともに学校に対する思いが深まっているようである。今後も生徒がエージェンシーを発揮しながら学びを深められるよう授業改善を図っていくとともに、学校行事の充実等魅力ある生徒主体の学校運営を進めていきたい。	○3年生になるほど愛校心が強くなる傾向にあり、学校行事や学習などへの取り組みから、年々学校を好きになっていく様子がみられる。 ○東毛地区第一の進学校として、さらに進路意識を高めていってほしい。
		② 3年間を見通した系統的・計画的な学習指導・進路指導により、第一志望校への合格率80%以上、国公立大学合格者数150名以上である。特に難関国公立大、医学部医学科合格者数が30名以上である。	○学年・教科・企画・探究部、進路指導部の各部署が連携して、学校として統一をとりながら3年間を見通した進路指導体制を確立する。 ○学力向上や進路（キャリア）に関する意識が高められる内容を検討したうえで、各学年ともに適切な進路やキャリア教育的な行事を実施する。特に、面談や学年集会等を通じて高い志の維持や第一志望への強い意志が持てるように、早期から系統的にきめ細やかな指導を実践する。 ○他校との情報交換や外部機関の研修会への参加を通して、進路実現に向けた授業改善と進路行事の精査・改善を推し進める。	A	A	A	○学年・教科・企画・探究部、進路指導部の各部署が連携し、3年間を見通した指導体制がしっかりと機能している。3年生の生徒たちの模擬試験の成績などから、左記の目標値を達成できる可能性は十分にあると考えている。 ○三者面談、二者面談の回数についての質問に対して、適当と答えた1年生は88.4%、2年生89.0%、3年生87.9%だった。また、「担任と面談することによって、現状理解や進路についての展望が深まったか」の質問に対して、「おおいに深まった、深まった」と回答した3年生は93.5%という高い数値を示している。きめ細やかな指導に導かれて、生徒たちが高いモチベーションを維持して第一志望の大学を目指していることがうかがえる。	○部活動加入率は達成されていないということであるが、成果は十分にあげているのではないかと考える。
		③ 部活動加入率が各学年90%以上で、この内80%以上が積極的な活動である。	○部活動顧問と担任とが緊密に情報交換を行い、生徒の状況に合った活動ができるような環境づくりを進める。 ○各部活動とも一段階上の目標を掲げるとともに、本校部活動指導方針に基づき、主体的・効率的な活動を促進し、生徒の【コアパフォーマンス能力】・【失敗力】の育成とともに実績の向上を図る。 ○正副顧問の連携を図ることで、生徒の安全確保に努めるとともに、職員のワークライフバランスにも配慮する。	B	C	C	○1年生のアンケートから、「部活動（委員会・同好会を含む）」に「部活動に加入している」生徒が87.9%、そのうち「極めて積極的に」「積極的に参加している」生徒が79.4%である。「部活動加入率90%以上」という目標に届いていないため、教職員全体で部活動の価値（学力との関連性など）を改めて伝達していきたい。 ○活動については、「極めて積極的に参加している」と「積極的に参加している」の合計値が、2年生で67.4%、3年生で83.4%であった。学校の中核となる2年生の数値が高くしていくために改善を図っていきたい。	○部活動に関しては、大会での成績向上を目指すだけでなく、仲間づくりといった面も大切にしてほしい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業に満足している生徒が85%以上である。	○60分授業を有効活用するために、時間配分、ICTの活用等新たな課題に対して継続的に工夫・改善を図る。 ○新学習指導要領および本校生徒に身につけさせたい資質・能力を踏まえ、【探究力】・【メタ認知能力】・【プレゼンテーション能力】を育成するために、主体的・対話的な深い学びを意識した授業を推進し、生徒の目標に沿った進路実現に導く。 ○互見授業や研究授業を通じて、各教員の指導力と生徒理解力の向上を図る。 ○各教科・科目において習熟度別対策をできる範囲で実施する。	B	B	B	○授業内容に「満足」と答えている生徒が各学年ともに85%以上である（3年生92.6%、2年生90.3%、1年生88.8%）。3年生は昨年度84.5%であったが、受験を意識した学習が進む中で満足度が劇的に改善されている。今後も目標を明確にした授業改善に努めていきたい。 ○ランドデザインに基づいた学校運営を進めるとともに、ランドデザインのブラッシュアップを図り、生徒・保護者・地域が満足できる学校像を構築していきたい。 ○習熟度授業は主に3年生に対して実施しているが、数学・英語等の習熟度授業に満足している生徒が92.6%と高い数値を示している。より良い方策になるよう修正しながら習熟度授業を継続して行くことが望ましいと考えている。	○大変細かく指導されていることに感心した。 ○学習や探究活動とやることが多い中で、上手に時間を使っていると思う。
		⑤ 進路実現に向けて実施している、補習・課外授業に満足している生徒が80%以上である。	○土曜課外について、回数の適正化や目標および目的の明確化によって生徒の学習意欲の向上を図るとともに、実施時期の適正化や実施内容の改善を推進する。特に、地歴・公民・理科の実施や習熟度別課外の実施等、生徒の実態により即した内容となるように弾力的に活用する。 ○通常授業の充実を柱に、課外・補習の役割分担や位置づけを明確にし、それぞれを的確に補完させながら生徒全体の学力向上を図る。 ○課外・補習の実施状況や実施内容を定期的に検証し、生徒の満足度を高める。	B	C	C	○補習・課外授業に対する満足度は、3年生は84.8%で良好であるが、土曜課外に対する満足度が1年生59.1%、2年生52.0%と低く、両学年ともに目標を大きく下回っている状況である。1・2年生の土曜課外に関しては改善の余地があり、課外としての目的を明示し、意欲的に取り組めるものとするよう工夫していきたい。 ○授業第一主義のもと、ICTの活用などにより授業改善を推進させるとともに、授業を補完する為の課外や補習、課題等を適切に調整し、文武両道のバランスの取れた生徒の育成に尽力していきたい。 ○土曜課外については、模擬試験対策に重点を置いたが、時間の制約によって解説が十分にできなかったり、難易度と生徒個々の能力が不一致を起していたりして、生徒の満足度を下げる要因になっているのではないかと考える。模擬試験の対策として実施することは一定の評価を得ているので、実施方法を調整していきたい。	○土曜課外については、低学年ほど満足度が低い傾向がみられる。このあたりを分析して今後に生かしていく必要がある。多少強制力を持って実施しないと効果がないのではないかと考える。
		⑥ 総合的な探究の時間を中心とした探究的な学習活動で、【プレゼンテーション能力】・【探究力】が身に付いたと自己評価する生徒が80%以上である。	○企画・探究部を中心に進路指導部や学年と連携を密にし、計画的・系統的な学習活動を実施する。特に1学年では、自校内における講演会やセミナー、企業研究所訪問研修などの外部機関への訪問を通して興味関心を広げながら、個人探究のテーマである「21世紀の担い手として創造したい社会」を見い出す教育活動を実施していく。2学年では、1年次に設定した「創造したい社会」を実現するために、フィールドワークや実験・研究活動が計画的に実施できるようにし、創造したい社会と現実の社会の差を埋める探究活動を実施する。 ○外部機関への訪問後など、生徒が主体的に発表する機会を多く実施する。 ○2学年は個人探究の成果として、全生徒1つ以上コンテストに応募する。 ○「総合的な探究の時間」の内容について保護者理解を深めるために、Webページへの掲載等を通じて学校からの発信を推進する。	A	A	A	○「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学習活動で「探究力」「プレゼンテーション能力」が身につけると答えた生徒が1年生では85.4%、2年生では85.9%であった。1・2年生とも目標を達成することができた。 ○発表活動においては、1・2年生とも3回実施した。太田女子高校との合同発表会に加えて、2年生の個人探究最終発表会ではポスターセッション形式を新たに導入した。今後も更にブラッシュアップをしていきたい。 ○2年生全員が個人探究の成果としてマイプロジェクトアワードに応募した。コンテストへの応募を促進させ、進路実現にも繋げていきたい。 ○「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学習活動で「探究力」「プレゼンテーション能力」が身につけると答えた保護者は約65%である一方、わからないと答えた保護者が25%であった。引き続きWebページへの掲載等を通じて学校からの発信を行ってほしい。 ○探究活動における主体的に探究する活動が、自主的に自分の進路を考え、学習に向かう姿勢を養うことにつながっており、その成果が各学年の模擬試験等の結果にあらわれているのではないかと考える。	○探究活動の取り組みは興味深い。生徒が社会との接点を考える機会になると思う。 ○探究活動での発表などを通して、自分の意見を述べることができるようになったと感じているようである。
3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	7 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	⑦ 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	○学年を中心に、学級担任・教科担当との連携に基づいた二者面談等を通じて生徒の状況を把握したうえで、学習法や目標設定など生徒への適切な支援を行う。 ○学習に対する達成感を高めるために、各テストの目的・意義の明確化や記述・論述問題を適切に取り入れた作問の工夫を図る。 ○客観的な指標として模擬試験結果の分析を通じて中期的な育成課題を洗い出し、学習におけるポイント（学習方法や科目バランス）を明確にする。 ○個に応じた学習指導を展開するために、生徒の状況に応じた小グループでの指導や添削の学年横断的な取組を継続し、個々の教員の指導力向上を図り、生徒に還元する。	A	A	A	○「担任と面談したことによって現状理解や進路についての展望が深まったか」の問いに対して、3年生93.5%、2年生93.4%、1年生93.1%が深まったと回答しており、十分に担任と生徒が進路に対する情報共有ができていくことがうかがえる。継続的に二者面談を通じて生徒の成長を促していきたい。 ○「授業→定期考査・学力テスト→やり直し（振り返り）」を1つの学習サイクルとして回すことで生徒の学びを支援する形ができつつある。試験後に問題者が作成した解答解説を用いて生徒に試験のふりかえりを促す指導が継続的に行われており、生徒の知識定着に高い効果があると同時に、出題者側である教師の作問力の向上が図られている。 ○各学年において、難関大セミナー、医学部医学科セミナーへの参加者を募り、3年間を見通して継続的な指導が行われている。進路関係のデータを用いたり、添削指導を行うことで、高い目標を掲げる生徒のモチベーションの維持に役立っている。	○学習や探究活動とやることが多い中で、上手に時間を使っていると思う。
		⑧ 学習内容の定着等のために、家庭での1日当たりの平均学習時間は3時間以上である。	○「学習・授業・復習・試験・ふりかえり」を1セットとして学習のサイクルを回し、試験後のふりかえりややり直しを実施し、思考する素材となる【基礎的な知識・技能】が身につく、生徒が自主的に家庭学習に取り組めるよう、授業改善をさらに推進する。 ○主体的な学習者になるように、学年・教科が連携し課題の量や内容が生徒の実態に合うように改善を図る。習熟度によって課題の内容を分けることも検討する。また授業との関連や生徒の学習意欲の喚起にも留意し、計画的に課題を課す。 ○生徒の進路意識を高めるため、進路講演会等の進路行事の改善や充実を図る。特に、【メタ認知能力】を育成するために、外部講師の活用と校内教職員による指導を適切に活用する。 ○学習時間調査を定期的に実施して学習時間を定点観測することで、生徒の学習状況を把握する。また、二者面談などを通じて適切なフィードバックを与えることで、生徒の学習意欲向上の支援を行う。	B	B	B	○「学習・授業・復習の学習サイクルが確立している」と回答した生徒は、3年生64.0%、2年生85.0%、1年生81.1%と高い数値を示している。低学年時からしっかりと学習習慣が確立されている。3年生に関しては演習形式の授業も多く、予習を必要としない教科・科目があることも考慮に入れる必要がある。 ○「平日の平均家庭学習時間が3時間以上の生徒」は3年生90.5%で、受験生としての自覚が十分である。2年生は29.5%、1年生は16.4%であるが、文武両道を実践し部活動や各自の活動を行っている生徒も多いため悪い結果とはいええない。スキマ時間などを有効活用するなどの指導が必要と感じる。 ○保護者会、模擬試験の振り返りなどを外部から講師を招いて実施することで、生徒、保護者、教師ともに最新の情報を共有することができている。進路講演や振り返りの内容をブラッシュアップしながら継続的に活動していきたい。 ○長期休業明け、定期考査前などを中心に継続的な学習時間調査を行い、二者面談などで生徒へフィードバックしている。定期考査、学力テスト、模擬試験の結果と学習時間の相関を確認しながら、より効果的に指導できるよう工夫していきたい。	○学習量が1・2年生で少ないのは、部活動等に積極的に参加しているからという面もあり、仕方ないのではないかと考える。

Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回程度行っている。また、生徒アンケートや学年分掌の情報交換を通して、いじめの発生防止と発見に努め、いじめの解消100%をめざす。	○適切な指導を行う前提として生徒に関する必要十分な情報を共有するため、月2回以上の学年会議と相談係会議を設定する。また、つまずきや不登校の予防的指導を重視し、定例会議だけでなく日頃から教職員間の連携に努める。 ○「いじめはどここの学校でも存在する」という共通認識のもと、生徒アンケートや学年・分掌の情報交換を通し、いじめの未然防止に努め、発見しだい迅速かつ適切に対応して、いじめの根絶を図る。	A	B	B	○毎回の運営委員会と毎回の職員会議の全18回（12月末現在）で綿密に生徒の情報交換・情報共有を行った。問題を抱える生徒に対して個別の指導計画の立案を含めて指導していき たい。 ○現在（12月末現在）までのいじめ認知件数は2件である。引き続きいじめのアンケート調査に加えて、日常的な観察・面談等を通して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めていきたい。	○太高祭については、ここ数年と違い、制限がない中で実施されて良かった。
		⑩ 生徒会行事に満足感・達成感を持っている生徒が70%以上である。	○行事の企画や運営などにおいて、生徒の【コオペレーション能力】・【探究力】・【プレゼンテーション能力】育成のため、生徒が主体的に取り組むことができるように、良識の範囲内で生徒に裁量権を与えて活動させる。 ○文化祭に向けて、生徒の主体的な活動をサポートしながらも、適度な躰さに基づく【失敗力】の育成を心掛け、充実感に満ちた行事にする。	A	A	A	○生徒会行事については、文化祭（太高祭）・球技大会を実施するとともに、事後アンケートでは生徒の90%近くが積極的に参加したと回答した（3年生95.2%、2年生89.0%、1年生90.1%）。今後も生徒が主体的に活動できるように支援していきたい。 ○学校行事に対し十分な準備期間を設けている。生徒の行動には失敗や無駄も多いが、それらに気づかせながらも教員が手を回しすぎないように心がけ、生徒一人ひとりが主体的に取り組めるように留意している。	○男子校ならではの良さもあるのではない か。 ○いじめ問題に関しては十分な対策が取られて いると考える。また、いじめ問題を真剣 に考えている生徒も多いと感じている。
		⑪ 職員・生徒・保護者間のコミュニケーションを密にする取組を行うとともに、学校生活に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○各学期ごとの二者面談や三者面談の「ねらい」を明確化し、面談の成果をあげる。 ○保護者の視点に立った情報発信を行い、三者間の連携を密にする取組（三者面談、学年保護者会、保護者アンケートなど）を有効に活用して、相互信頼関係を構築し、透明性と安心感のある学校づくりを進める。	A	A	A	○生徒については、3年生93.5%、2年生93.4%、1年生93.1%が三者面談で現状理解や進路展望が深まったと回答している。教師と保護者が直接コミュニケーションがとれた三者面談は大変に貴重な機会となった。日頃から情報の送受信を積極的に行い保護者、地域との連携を深めていきたい。 ○生徒が学校生活全般に積極的に取り組んでいると感じる保護者は3年生82.7%、2年生78.9%、1年生81.8%であった。今後も生徒が主体的に学校生活を送れるよう対策をしていきたい。 ○「学年通信や『進路ジャーナル』は保護者が知りたい情報を伝えてありますか」の問いに対して、伝えていると回答した3年生保護者は94.4%、2年生保護者は71.6%、1年生保護者は81.4%である。まだまだ、改善の余地はあるものの一定の評価を得ることができた。更に、保護者のニーズに応えられるような情報発信を行っていきたい。	○インターネットリテラシーを高めていく 必要がある。 ○これからはヘルメット着用が当たり前と いう時代になってくる。また、あと数年で 自動車免許を取得する年齢にもなる。交通 安全の意識をさらに高めてもらいたい。
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に 行っていますか。	⑫ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に 行っている」と認識している生徒が80%以上である。	○生徒会活動や学級活動を通じて生徒の【メタ認知能力】を育成し、生徒主体のいじめ防止活動を実施する。 ○いじめ防止や早期発見のためには保護者との連携が重要であるため、いじめ防止に対する学校の取組を、Webページに積極的に掲載する。 ○「いじめ防止等の取組状況調査（生徒・保護者）」を通じて、学校の取組を検証する。	○本校のいじめの未然防止や早期発見とその解消に向けた取組について生徒の86.8%、保護者の61.0%が肯定的な意見であった。およそ4.4%の保護者からは否定的な意見をいただいている。今後も保護者会や学校ホームページ等を活用し周知に努めるとともに、引き続き粘り強く理解を求めていきたい。	A	B	B		
	⑬ いじめと真剣に向き合い、常にいじめを許さない 気持ちと態度で臨んでいる生徒が90%以上である。	○年間2回実施している「いじめ防止強化月間」で、のほり旗等を利用した活動を通して、学校全体でいじめに対峙していく集団を形成し、【コオペレーション能力】の育成をめざす。 ○「スマホ利用ルール」を周知し生徒・保護者を交えて再認識することで、SNSを介したいじめの未然防止に努める。 ○「挨拶運動」を年間2回・2日間実施し、円滑な人間関係の醸成を図る。	A	B	A	○いじめ防止フォーラムの成果ポスターやいじめ防止強化月間・あいさつ運動等を通して、いじめ防止に対する意識向上を図れた。 ○97.4%の生徒がいじめに真剣に向き合う態度を持っている。若干名の保護者からは学校のいじめ対策がなされていないとの回答をいただいたが、学校側の周知努力は昨年度より功を奏している。生徒間のトラブルは複雑で表面化しない問題もあるため、生徒の生活に目を配り、変化を見逃さないよう職員間で情報共有をしていきたい。		
6 生徒は健康で、規則正しい 学校生活を送っていますか。	⑭ 家庭と連携をとりながら、(正当な理由でない)遅 刻を0%にする。	○基本的な生活習慣の確立は充実した学校生活の基盤であることを、生徒が様々な場面において自覚できる機会を設け、【メタ認知能力】の育成とともに自己管理能力を高める。 ○「家庭は安心して生徒を送り出す、学校は責任を持って生徒を迎える」という関係性に基づいて、学校と保護者の信頼関係を構築する。 ○交通安全指導・登校時指導を通して、ゆとりのある登校を心掛けさせ、生徒の生活習慣の確立を促す。 ○「保健だより」を定期的に発行し、感染症などの予防や、生徒の体調管理に役立つようにする。	○2学期の遅刻は1学期（合計404 1日平均5.8人）に比べ増加傾向（合計871 1日平均11.0人）、昨年度（10.6人）よりも若干ではあるが増加し、一昨年（1日平均11.0人）とほぼ同じである。アンケートから規則正しい高校生活を送っているという生徒の割合は81.8%である。 ○96.6%の生徒が安全な登校を心がけているという結果を得たが、交通ルール・マナー等において依然として改善すべきところが多い。集会等を通して交通事故を未然に防ぐ観点からも安全な登下校を心がけるよう、保護者とともに指導していきたい。 ○「保健だより」などにより情報を提供し、健康・安全について生徒の意識を高め、心身ともに健やかに充実した高校生活が送れるよう支援していきたい。	B	B	B		
		⑮ 学校から提供される進路情報が役立っていると評 価する生徒が70%以上である。	○進路指導室や資料室を生徒が利用しやすいように整備し、必要な情報をタイムリーに得られるよう工夫する。 ○生徒及び保護者に対して進路情報を適切に提供できるよう努める。特に保護者会や三者面談の機会では情報を精査したうえで資料を準備する。 ○情報発信について、紙媒体やデジタル媒体（一斉メール、Classroom、Webページ）を、場面や状況に応じて使い分ける。 ○学習法等について、進路指導部が各学年等を通じて生徒に提供できる情報をより整備する。	B	A	A	○進路資料室の整備は進んでおり、生徒たちも赤本の利用を積極的に行っている様子がか がえる。資料の整理に関しては、まだ改善の余地があると認識しているので、棚の設置も 含めて検討していきたい。 ○「生徒が主体的に進路を選択できるように進路情報が提供されていると思いますか」の 問いに対して、「されている」と回答した3年生保護者は85.7%、2年生保護者は76.2%、 1年生保護者は78.3%である。改善の余地はあるものの一定の評価を得ていると考える。 情報発信の方法・内容を改良しながら引き続き、保護者との情報共有に努めていき たい。 ○「学校からの進路情報は、進路を考える際の役に立っていますか」の問いに対して、「役 立っている」と回答した3年生94.4%、2年生92%、1年生94.3%となった。日頃の各学 年からの情報発信が的確に行われていることがうかがえる。	○進路指導については、昔と比較して幅広 い層の生徒に対応していると感じる。 ○進路について高い目標を持たせて、指導 を継続してほしい。
Ⅳ 生徒の主体的な 進路選択について 適切な指導を していますか。	7 計画的な指導を行っていま すか。	⑯ 自らの進路について考え、日々の生活に取り組ん でいると自己評価する生徒が70%以上である。	○探究活動の計画的な指導を充実させることで、進路指導・キャリア教育と連携した活動となるように整備する。特に、生徒の発達段階に合わせて自らの将来を見通せるように【メタ認知能力】の育成をめざす。 ○自身の進路（キャリア）と高校生活が密接に関連していることを認識させ、学習や部活動などの場面で動機づける。 ○インターンシップ（社会への試行的参加活動）への積極的な参加を推進する。	○企画・探究部長が進路指導部の会議に参加するとともに、進路指導主事も企画・探究部の会議に参加することで連携を深め、探究活動と進路指導の一体化を図っている。 ○「自らの進路について考え、その実現に向けて日々の生活に取り組んでいますか」の問い に対して、「取り組んでいる」と回答した3年生は97.4%、2年生は91.2%である。探究 活動において主体的に活動する姿勢が、進路を考える日々の活動につながっていると考 える。 ○1年生で企業研究所訪問研修、2年生でフィールドワークを実施することで積極的に社会 との接点を持っている。	A	A	A	
		8 生徒は自らの進路について 真剣に考え、その実現に向 けて取り組んでいますか。	○一斉メールやWebページを活用したタイムリーな情報発信について、保護者から高い評価を得ているため、この体制を継続する。 ○見やすく、わかりやすいWebページの作成を心がけるとともに、各分掌との連携を深めることでタイムリーな情報発信を行う。	A	A	A	○本校のWebページおよび情報発信に関して、80%以上の保護者が満足しているとアン ケートに答えている。次年度も各分掌との連携を深めることでタイムリーな情報発信に努め ていきたい。	○学年通信などがメール配信されて良か った。紙だとなかなか親のところまで届か ない。
Ⅴ 開かれた学校づ くりを努めていま すか。	9 家庭、地域社会に積極的に 情報発信をしていますか。	⑰ 学校からの情報発信に満足していると評価する保 護者が70%以上である。	○教職員が、ICTを活用した教育活動に取り組みやすいように校 内の環境を整備する。 ○校内の研究授業において、ICTを活用した授業の取り組みを推 進する。 ○校内において研修や意見交換会を開催し、有益な情報の共有を 図る。	○アンケートにおいて、89.1%の生徒が授業等でICT機器を活用していると答えている。 ○教職員へのタブレットの配付により、授業においてICTを活用する実践が増加した。今年 度からは自動採点ソフト「百問繚乱」を県全体として使用するようになり、定期テストや小 テストでも活用されている。ICTはもはや欠くことのできない存在となっているので、授業 への活用方法について、教職員間での情報共有をさらに深めていき、よりよい授業実践につ なげていきたい。	A	A	A	○電子採点システムが導入され、良かった と思う。 ○欠席連絡のメール化は、電話と違い時間 を見計らう必要がないので、便利である。
		10 教育活動におけるICTの活 用を推進していますか。	⑱ オンラインによるアンケートを5回以上実施す る。	○学校行事や授業に関するオンラインのアンケートを積極的に実 施する。 ○ICTでの連絡等を積極的に行い、ペーパーレス化の促進を進め るとともに、生徒・保護者理解を深める。	○学校行事や学年行事のアンケートなど多岐にわたって年5回以上のアンケートが実施され ており、授業の振り返りなどでも積極的にICTが活用されている。	A	A	A
Ⅵ 教育デジタル化 に努めていますか。	11 業務におけるICTの活用を 推進していますか。	⑲		A	A	A		